

イル=ハン朝の文書行政システムにおける モンゴル文書様式と元朝印章制度の影響 ——アルダビール文書を中心に——

2010.12.11(Sat) 於早稲田大学
四日市康博 (九州大学人文科学研究院)

イル=ハン朝印章制度とモンゴル文書様式

命令形式に基づいた行政文書体系:

イルハン勅令文書: *üge / yarlıgh / farmān*
非ハン命令文書: *söz / hukm / mithāl*

漢語	モンゴル語	トルコ語	ペルシア語
聖旨	<i>jrlg</i>		
令旨	<i>üge</i>	<i>yarliḡ</i>	<i>farmān</i>
鈐旨		<i>söz</i>	<i>hukm/mithāl</i>

押印に基づいた行政文書体系: 【史料①】

- *yarlıgh* (勅令文書)
- *qarā tamghā* (黒印文書)
- *mithāl* (無印文書)
- *āl-tamghā* (朱印文書)
- *kūk tamghā* (青緑印文書)

イル=ハン朝の印章:

- *āl-tamghā* (朱印)
- *altūn tamghā* (金印)
- *tamghā-ye bozorg* (大印)
- *qārā tamghā* (黒印)
- *kūk tamghā* (青緑印)

ククタムガ *kūk tamghā* (青印文書)

俸給の算定文書など主に財政文書として分類されるか?

yashil bilga / yašil belge (緑印)
= *kūk tamghā / kök tamya* (青印)

yasil = *kok* cf. Clauson, p.978

カラタムガ *qara tamghā* (黒印文書)

Amīr の確認印のみで、Dīwān の朱印が無い文書。

*Amīr の確認印があっても、*al-tamghā* (朱印) がある文書は「*al-tamghā* (朱印文書)」という。

カラタムガの授与

kesig 長の 4 人の amīr に黒印を授け、yarligh に押印する際に裏に確認のために押印させた【史料②】

印影が現存するカラタムガ

Baytumish (687-691AH)	Tayqu (700AH)
Qutlugh Shah (704AH) 3.8×3.8cm	Husain (704AH) 2.8×3.8cm
Chupan (721-726AH)	Dimashq Khwajah (723AH)
Amir Khan (734AH)	Shaykh Hasan Cupani (743AH)
Rustam Ashrafi (750AH)	Pir Muhammad (750AH)
Akhi Ashrafi (759AH)	Shaykh Ali (766AH)

カラタムガの変容

680 – 730AH (Argun Qan – Oljeitu)	… ウイグル・パクパ文字モンゴル語 方形印
↓	
720 – 750AH ? (Oljeitu, Abu Said – post ilkhanid)	… アラビア文字トルコ語・ペルシア語・アラビア語 方形印
↓	
750AH – (Chupanid)	… アラビア文字ペルシア語・アラビア語 円形印・花形印

アルタムガ *al tamghā* (朱印文書)

amīr、*wazīr*、*dīwān* の朱印が押印された文書

印影が現存しているアルタムガ

692AH/1293AD (Gaihatu) 「行戸部尚書印」 (漢字漢語) 9.0×9.0cm
704AH/1305AD (Oljeitu) 「右樞密使之印」 (漢字漢語) 9.0×9.0cm
704AH/1305AD (Oljeitu) 「王府之印」 (漢字漢語) 9.5×9.5cm
704-730AH/1305-1330AD (Öljeitü – Abu Said) 「總管隱院之印」 (漢字漢語) 8.0×8.0cm
726AH (Abu Said) 「翊國公印」 (パクパ字漢語)

印影が現存するアルタムガの所有者

行戸部尚書印	…	ディワーン長官 (Sahib Diwan) の Sadr al-Dīn Ahmad
王府之印	…	全王国の宰相職 (vezarat-e mamālek) の Sa‘d al-Dīn
右樞密使之印	…	Öljeitü 期筆頭 amīr の Qutlugh Shah
總管隱院之印	…	amīr Husayn ?

授与が記録に残るアルタムガの所有者

Shams al-Dīn Juwainī	…	Hülegü, Abaqa 期の宰相 wazīr
Buqa	…	Abaqa, Arḡun 期の全王国の宰相職、筆頭 amīr 職
		→ 元朝から丞相・darqan の身分を授与

Nourūz ... イル=ハン朝政府の前身ホラーサーンのディーワーンのジャルグチ（長官）Arghun Aqa の息子

Tāj al-Dīn ‘Alī Shāh ... Öljeitü期の宰相wazir

Rashīd al-Dīn Fadhlallā ... Gazan, Öljeitü期の宰相wazir

アルタムガの授与

- ・イル=ハン朝前期は、皇帝印・官印を共に al tamgha（朱印）と呼称。
- ・文官の筆頭である宰相 wazir や官府長官 sahib diwan、武官の筆頭である第一位 amīr に朱印 al tamgha を授与
- ・臣下に朱印を授与する場合、イル=ハンと同様に元朝の認可の下に称号共々授与された可能性が高い。
- ・Gazan Qan が皇帝印として金印 altun tamgha を制定した後は、官印だけが al tamgha と呼ばれるように。

現存するイル=ハン朝アルタムガは基本的に漢字漢語印？

※画期となるのが「翊國公印」（726AH (1326AD) 発令者不明(Chupan?) Fārsī-形式不明(söz?)文書)

→ イル=ハン朝で唯一のパクパ字アルタムガ

yi-guo-gong-yin 【史料③】

→ 元朝（泰定帝 Esen Temür）がイル=ハン朝 Abu Saīd の功臣 Čopan に賜与した銀印

ヤルリグ *yarligh*（勅令文書）

qan が発給した勅令文書。宝璽が押印される。

yarligh という様式宣言をしたペルシア語の yarliq 文書現物は現存せず（farmān は現存。）*Jāmi‘ al-Tawārīkh* などの編纂史料に写し(sawād)が収録されるのみ。現存する文書はモンゴル語文書（ただし、こちらも宣言される様式は yarligh ではなく üge 文書）。

現存する宝璽（皇帝印）

1267-1290AD (Abaqa, Arghun) 「輔國安民之寶」（漢字漢語）15.3(13.0)×15.0(14.8)cm

1302AD (Gazan) 「王府定國理民之寶」（漢字漢語）9.5×9.4(9.0)cm

1305-1320AD(Oljeitu, Abu Said) 「眞命皇帝天順萬理之寶」（漢字漢語）13.0×13.0cm

725AH/1325AD(Abu Said) “*al-Sultān al-a‘ẓham / Abū Sa‘īd / khallada Allāh mulkahu*”
（アラビア文字アラビア語）4.5×4.2cm

750AH/1350AD(Shaykh Uwais) “*lā ilāha illā Allāh / Muhammad rasūl Allāh*” （アラビア文字アラビア語）4.5×4.2cm

（皇帝印か官印か判断が難しいもの）

721-726AH/1321-1326AD(Amir Chuban / Abu Said) “*lā ilāha illā Allāh / Muhammad rasūl Allāh*” （アラビア文字アラビア語）8.5×6.5cm

743AH/1342AD(Hasan Chubani / Sultan Slaiman) “*lā ilāha illā Allāh al-malik al-haqq al-mubin / Muhammad rasūl Allāh .. / al-fulafa’ al-rasidin ...*” （アラビア文字ア

ラビア語) 9.0×7.5cm

皇帝印とアルタムガ

漢字朱印の *al tamgha* は全て 「…之印」
イル=ハンの皇帝印 (宝璽) は全て 「…之寶」

※元朝では、宝璽を使用できる権限を持つのは、皇帝、皇后、皇太后、皇太子のみ
→ 皇族・王族でもそれ以外の者は使用不可
→ モンゴル帝国の枠組みでは、建前上、イル=ハンは宝璽を使用不可能

イル=ハン朝漢字宝璽の起源

現存する漢字宝璽 → 元朝からの賜与ではなく、イル=ハン朝が独自に作成した可能性

それらの原型としてフレグが元朝の世祖フビライから賜与された「皇弟之寶」が存在？

cf. 元朝 明宗 Qoshira 期の「皇兄之寶」

→ イル=ハン朝の歴代宝璽は、もともと Hūlegü Qan が Qubilai に協力した見返りとして賜与された宝璽をもとに作成されたものではないだろうか。

皇帝印の変容

1267 – 1320AD (Abaqa Qan – Abu Said)

… 漢字漢語 方形朱印

↓

1320? – 1350AD (Abu Said – post ilkhanid)

… アラビア文字アラビア語 方形金印

アラビア文字アラビア語 方形朱印 (?)

皇帝印は何印か？

◆アルタムガ *āl-tamghā* (朱印) か？ → 現在の通説 (Doerfer, Herrmann)

ただし、Gazan 期以後皇帝印を *al tamya* (朱印) と明記するのは、モンゴル語文書のみ。

※ ペルシア語史料では、*altun tamgha* や *tamgha-ye bozorg* と表記。

※ 逆にモンゴル語には、*altan tamya* (金印) という表現は見えない。

→ ペルシア語では、Gazan 期以後、*altun tamgha* (金印) は皇帝印、*al tamgha* (朱印) は官印として区別。【史料④】

◆大印 *tamghā-yi buzurg* か？ → *Jami' Tawarikh* に記述あり 【史料⑤】

印章の種類	波斯語	材質	用途	所在	元朝印との対応
碧玉製の大印章	tamgha-ye bozorg-e yashm	碧玉	大君主sultanたちの統治事、重大国事	ハンの革袋	宝璽
少し小さな碧玉製の大印章	yashm-e andaki-ye kuchektar	碧玉	法官qadi・導師emam・長老shaykhたちの諸事	ハンの革袋	宝璽
碧玉より小さな金製の大印章	tamgha-ye bozorg az zar-e furutar az an-e yashm	金	中級の重大事	ハンの革袋	宝璽
金製の特別な印章	tamgha-ye makhsus az zar	金	軍事	ハンの革袋	宝璽
小さな金印 altun tamgha	altun tamgha-ye kuchek	金？	財政事	ハンの革袋	宝璽
朱印(官印)	al tamgha (tamgha-ye divan)	金、銀	官府の命令書	宰相、長官、筆頭アミール	官印
黒印	qara tamgha	不明	アミールによる確認	ケシクのアミール	官印

→ イル=ハン朝の漢字宝璽は、大印に該当するのでは。

◆アルトゥンタムガ *altun-tamghā* (金印) か？

→ Gazan Qan 期、官印 *al-tamgha* に代わって皇帝印 *altun tamgha* を制定

※大印 *tamgha-ye bozorg* という表現が出てくるのは、

Jāmi' al-Tawārikh, Ghāzān Khān 紀 第3部 第22章のみ。

一方、金印 *altun tamgha* という表現は様々な史料で頻出。

→ 金印 *altun tamgha* は大印 *tamgha-ye bozorg* の中の「小さな金印」だけを指すか？
それとも「大印」と同義か？

なぜモンゴル語では *al tamya* なのか？

仮説1：

→ モンゴル語では、印璽の色（赤・金）でハーンと非ハーンを区別する観念は無く、*al tamyatai* ...は皇帝印・官印の別に関わりなしに「朱い印影のある」状態を示したもの。

仮説2：

→ ペルシア語/トルコ語で *altun tamgha* (金印) と呼ぶ印は、モンゴル語で *altan tamya* と呼ぶことは許されず、ランクがひとつ下がって *al tamya* (朱印) と呼ばれる。

ex. [Per.] *yarligh* → [Mon.] × *jrl̥y* ○ *üge*

元朝 Jibig Temür(只必帖木兒大王)牛年(1277) ウイグル字モンゴル語漢語合璧令旨碑

漢語面:「執把金印令旨與」 (ll.13-15)

モンゴル語面: “*bariju aqu al tamyatai bičig ögbei*” (持つてゆく朱印付文書を与えた) (l.14)

史料

【史料①】 *Latā'if al-Inshā'*

*manshūr*とは、過去にはカリフや君主(*sultān*)の特別な花押(*tughrā'-e khāss*)で飾られた命令書(*ahkām*)のことを言った。モンゴル支配時代にはそれを*yarlīgh*と呼んでいる。アミールや宰相(*vazīr*)や地方君主(*malek*)の命令は過去には*mithāl*と呼んでいたが、モンゴル時代にはその〔種類の命令で〕朱(*āl*)〔の印章〕を捺したものを*āl tamghā*と言っていた。緑青色を捺したものを*kūk tamghā*と名付け、黒を捺したものは全て*qarā tamghā*と名付けた。印章が無くただ署名がなされたものをすべて*mithāl*と呼ぶのである。この慣習と術語は、現在でも使われている。

(*Latā'if al-Inshā'*/Majles, fol.115b)

【史料②】 *Jāmi' al-Tawārīkh*, Ghazan Khan 紀,第3部,第22章

〔ガザン=ハンは〕4つのケシク(禁衛)から4人のアミール(重臣)をお任じになられて、一人一人に別々の黒印(*qarā tamghā*)を与えた、「ヤルリグ(勅書)に印章を押す時、我らの知らないうちに決して否認できないように、裏面にそれを押印せよ。その後、再びワズィール(宰相)たち、ディーワーン(官府)の長官たち(*ashāb-e dīwān*)に、決してごまかしをしないか否か注意するように示せ。彼らもディーワーンの印章をその裏に押してから人に引き渡せ。」

【史料③】『元史』卷二九, 泰定帝紀一, 泰定元年十一月癸巳

諸王不賽因(*Abū Sa'īd*)言其臣出班(*Čoban*)有功請官之、以出班為開府儀同三司、翊國公、給銀印、金符。

【史料④】 *Tārīkh-i Wassāf*, j.3

〔*Ghāzān Khān*は〕吉祥のために、文書の朱印(*āl-e maktūbāt*)や牌符(*bai'zajāt*)の形状を方形から、もっと優れた形である円形に移行なさった。《円形は災厄の受難を遠ざける。》そして、朱印の刻銘(*sekkeh-ye āl*)を「神の他に神は無し。Muhammadは神の預言者なり(*lā ilāha illā Allāh, Muhammad rasūl Allāh*)」と施させた。

【史料⑤】 *Jāmi' al-Tawārīkh*, Ghazan Khan 紀 第3部 第22章

〔*Gazan Qan*は〕「朱印官(*ālchī*)たちは朱印の押印(*āl zadan*)のために決して何も受け取らないように」と命じて、実にこれ以前はどん欲であったことを極めて少なくした。そして、それぞれの重大事のために定められた印章を作った。強大な君主(*sultān*)たち、*amīr*たち、領主(*malek*)たちの統治や諸国事の重大な事柄のためには碧玉製の大印(*tamghāyī-ye bozorg-e yashm*)、*qādhi*(法官)たち・*imām*(導師)たち・*shaykh*(長老)たちそれぞれのためには

少し小さな碧玉製〔の大印〕(*yashm-e andakī kūchektar*)によって、諸事の中級の重要事のためには碧玉よりも小さな金製の大印(*tamghāyī-ye bozorg az zar furūtar az an-e yashm*)、軍隊の出軍・投営のためには金製の特別な印章(*tamghāyī-ye makhsūs az zar*)である。それは既存の刻銘・図柄と同じであるが、その周囲に弓と棍棒と剣が装飾された。境域の重大事を見る哨兵たちや行程を用心する少数の部隊が自分の*amīr*たちの口述によって出軍し、投営するのを除いて、軍隊はその印章を視認しない限り、*amīr*たちやいかなる人の口述によっても出軍したり投営してはならない。取引や水や土地の為に書かれる国庫(*khazāneh*)や地方の支払い手形(*baravāt*)や財務の受領証(*yāhteh*)や精算書(*mofāsāt*)、文書(*maktūbāt*)に押される小さな金印(*altūn tamghāyī-ye kūchek*)は、*dīwān* (官府)の*bitikchī* (文官)たちの許可によって書かれて、署名(*elāmāt*)がなされた後に、モンゴル字による要約がその裏面に書かれ、その印章をそこに押印する。現在、多くの支払い手形や文書が集められる際に、上奏がおこなわれて鍵が受け取られ、官府の宰相たち、副官たちが列席のうえ印章が押されている。さらに別の者たちがその箱の中にある帳簿に何時誰が押印したのか明らかであるように記録している。

文献

- Rashīd al-Dīn Fadhīl-Allāh Hamadānī. *Jāmi' al-Tawārīkh*
 [Jāmi' al-Tawārīkh/Roushan] M. Raushan; M. Musawī (ed.). *Jāmi' al-Tawārīkh*. Tehran. 1373/1995.
- Shihāb al-Dīn 'Abd-Allāh Sharāf Shīrāzī. *Tajziyat al-Amsār wa Tajziyat al-A'sār (Tārīkh-e Wassāf)*
 [Tārīkh-e Wassāf/Bombay] *Tārīkh-e Wassāf al-Hadrah dar Ahwāl-i Salatīn-i Mughūl*. Tehran. 1338/1960.
- Abū al-Qāsim 'Abdallāh bn Muhammad al-Qāshānī. *Tārīkh-e Ūljāitū*.
 [Tārīkh-e Ūljāitū/Hambulī] Mohīn Hambulī (ehtemām). *Tārīkh-e Ūljāitū*. Tehran, 1348.
- Muhammad ibn Hindūshāh Nakhchivānī. *Dastūr al-Kātib fī-Ta'yīn al-Marātīb*
 [Dastūr al-Kātib fī-Ta'yīn al-Marātīb/Ализаде] A.A. Али-заде (ed.). *Дастур ал-катиъ фи та'йин ал-маратиб*. том. II. москва. 1976
- Bonaparte, R.N. 1895. *Documents de l'époque mongole des XIII^e et XIV^e siècles*. Paris: Grave et imprimé pour l'auteur.
- 蔡美彪 1955. 《元代白話碑集錄》科學出版社
- 蔡美彪 1986. 〈河东延祚寺碑译释〉《蒙古史研究》2. 45-56 页.
- Cleaves, F.W. 1948. "A Chancellery Practice of the Mongols in the Thirteenth and Fourteenth Centuries." *Harvard Journal of Asian Studies* 11. pp.493-526.
- Cleaves, F.W. 1950. "The Sino-Mongolian Inscription of 1335 in Memory of Chang Ying-jüi." *Harvard Journal of Asiatic Studies* 13. pp.1-131.
- Cleaves, F.W. 1953(a). "The Mongolian Documents in the Musée de Teheran." *Harvard Journal of Asiatic Studies* 16/1-2. pp.1-107.
- Cleaves, F.W. 1953(b). "Darya and Gerege." *Harvard Journal of Asiatic Studies* 16/1-2. pp.237-259.
- Cleaves, F.W. 1960-61. "The Sino-Mongolian Inscription of 1240." *Harvard Journal of Asiatic Studies* 23. pp.62-75.

- 道布·照那斯图·刘兆鹤 1998.〈回鹘式蒙古文只必帖木儿大王令旨释读〉《民族语文》1998/2. 9-17 页.
- Dobu 1983. *Uyjurjin mongyul üsüg-ün durasqaltu bičig-üd*. Begejing: ündüsüten-ü keblel-ün qoriy_a.
- Doerfer-TMEN: Doerfer,G. 1963-75. *Türkische und mongolische Elemente in Neupersischen*. 4Bde. Wiesbaden: Franz Steiner Verlag GMBH.
- Doerfer,G. 1975. “Mongolica aus Ardabīl.” *Zentralasiatische Studien* 9. pp. 187-263.
- Doerfer,G. 1982-85 (a). “Āl-tamgā.” *Encyclopaedia Iranica*. vol.1. London: Routledge & Kegan Paul. pp. 766-768.
- Doerfer,G. 1982-85 (b). “Altūn-tamgā.” *Encyclopaedia Iranica*. vol.1. London: Routledge & Kegan Paul. pp. 913-914.
- Shaykh al-Hokamā’ī,Emād al-Dīn 1380. “Kātebān va qadhiyān-e asnād-e baqē’h-ye Shaykh Saḡī al-Dīn Ardabīlī (asnād-e qorn-e 6 tā 10 Hejrī)” *Nāme-ye Bahārestān* 4. ss.137-152.
- Shaykh al-Hokamā’ī,Emād al-Dīn 1383. “Bar-rasī-ye yek pāre-ye sanad-e Īlkhānī (movarrakh-e 726q.)” *Nāme-ye Bahārestān* 9-10.
- Shaykh al-Hokamā’ī,Emād al-Dīn 1387. *Fehrest-e asnād-e boq’eh-ye Saḡī al-Dīn Ardabīlī: moujūd dar Mūze-ye Mellī, Sāzmān-e Oūqāf, Ketābkhāneh-ye Mellī Tabrīz, Boq’eh-ye Shaykh Saḡī va* Tehrān: Ketābkhāneh, Mūzeh va Markaz-e Asnād-e Majoles-e Shūrāyī-ye Eslāmī.
- Farquhar,D.M. 1966. “The Official Seals and Ciphers of the Yuan Period.” *Monumenta Serica. Journal of Oriental Studies* 25. pp. 362-393.
- Herrmann, Gottfried 2004. *Persische Urkunden der Mongolenzeit*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Herrmann,G. 1997. “zum persischen urkundenwesen in der Mongolzeit Erlasse von Emiren und Wesiren.” Denise Aigle(ed.). *L’Iran face à la domination Mongole*. Téhéran: IFRI., pp. 321-331.
- Herrmann,G. und Doerfer,G. 1975(a). “Ein persisch-mongolischer Erlaß aus dem Jahr 725/1325.” *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 125. pp.317-346.
- Herrmann,G und Doerfer,G. 1975(b). “Ein persisch-mongolischer Erlass des Ġālāyeriden Šeyh Oveys.” *Central Asiatic Journal* 19/1-2. pp.1-84.
- Herrmann,G. 1973. “Ein Erlaß des Ġālāyeriden Soltān Hoseyn aus dem Jahr 780/1378.” *Erkenntnisse und Meinungen I*. Wiesbaden. pp.35-163.
- 呼格吉勒图·萨如拉 2004 『八思巴字蒙古语文献汇编』内蒙古教育出版社.
- 黄惇 1999. 《元代印風》重慶出版社
- Jacomot,Daniel & C^{le}. *Firman de Soltan Ahmad Djalair, Prince Ilkhanien* (MS. Bibliothèque Nationale de Paris, supplément persan N°1630; E.Bloch, Cat. Mss.persans, N°2334), La Fondation Nationale pour la reproduction des manuscrits précieux et pièces rares d’archives. Paris.
- Lambton,A.K.S. 1988. *Continuity and Change in Medieval Persia*. New York & London.
- 羅振玉 1916. 《隋唐以来官印集存》羅雪堂先生全集三編, 冊三
- 刘兆鹤·王西平 1998.《重阳宫道教碑石》三秦出版社.

- 刘迎胜 2006. 《察合台汗国史研究》上海世纪出版、上海古籍出版社
- 前嶋信次 1951. 「忽必烈樞密副使博羅考」『和田博士還曆記念東洋史論叢』東京：講談社.
607-624 頁。
- Madhhab, Mohsen Ja'fari [tarj.] 1379. A. Soudavar. "Nokhsatīn-e farmān-e fārsī-ye Īlkhānān." *Vaqf: Mīrāth-e jāvidān* 29.
- 松田孝一 1997. 「オゴデイ諸子ウルスの系譜と継承」志茂碩敏〔代表〕『ペルシア語古写本史料精査によるモンゴル帝国の諸王家に関する総合的研究』平成 7 年度科学研究費補助金（総合研究 A）研究成果報告書. 21-64 頁
- 松田孝一 2001. 〈关于小薛大王分地的来源〉《元史论丛 第八辑》江西教育出版社. 131-136 頁.
- 松川節 2002. 「新発表のモンゴル語命令文 3 件」松田孝一〔代表〕『碑刻等史料の総合的分析によるモンゴル帝国・元朝の政治・経済システムの基礎的研究』平成 12～13 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書. 55-67 頁.
- Meadows 1850. "Translations and Notice of two Mongolian Letters to Philip the Fair, king of France, 1305." *The Chinese Repository* 19.
- Minorsky, V. 1954. "A Mongol Decree of 720/1320 to the Family of Shaykh Zahid." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies, University of London* 16/3. pp.515-527.
- Mostaert, A. et Cleaves, F.W. 1952. "Trois documents mongols des Archives secretes vaticanes." *Harvard Journal of Asiatic Studies* 15/3-4. pp.419-506.
- Mostaert, Antoine et Cleaves, Francis Woodman 1962. *Les Lettres de 1289 et 1305 des ilkhan Arghun et Öljeitü à Philippe le Bel*. Cambridge, Massachusetts: Harvard U.P.
- Muhammad Roushan va Mostafā Mūsā 1373. "bāhthī dar bāreh-ye vāzheh-hā-ye Moghūlī – Turkī." *Jāmi' al-Tavārīkh*. Jeld-e 3. Tehran,
- 村岡倫 1993. 「オゴデイ=ウルスの分立」『東洋史苑』39. 20-48 頁
- 村岡倫 2001. 「モンゴル時代初期の河西・山西地方——右翼ウルスの分地成立をめぐって」『龍谷史壇』117. 1-22 頁
- 村岡倫 2002. 「モンゴル時代の右翼ウルスと山西地方」松田孝一〔代表〕『碑刻等史料の総合的分析によるモンゴル帝国・元朝の政治・経済システムの基礎的研究』平成 12～13 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書. 151-170 頁.
- Nakhjevānī, Hajj Hossein 1332. "Farmān az farāmīn-e doureh-ye Moghūl." *Nashriyeh-ye Dāneshkadeh-ye adbiyāt-e dāneshgāh-e Tabriz* 5/1.
- Papazyan, I.D. 1962. "Yerku norahayt' ilkhakanan yar'lighrer." *Banber Matenadarani* 6. pp.379-399.
- Pelliot, Paul 1936. "Les documents mongols du Musée de Teheran." *Athār-e Īrān, Annales du Service Archéologique de l'Iran* 1. pp.37-44.
- Qāe'm Maqāmī, Jahāngīr 1350. *Moqaddameh-yī bar shenākht-e asnād-e tārikhī*. Tehrān.
- Seyyed Hassan Shāhrestānī 1381. *Jelveh-hā-ye honar-e Īrānī dar asnād-e Mellī*. Tehran: Enteshārāt-e sāzmān-e asnād-e Mellī-ye Īrān.
- Soudavar, A. [ed.] 1981. *Persian Courts: Selections from Art and History Trust Collection*. New York: Rizzoli.

- Soudavar, A. 2006. "The Mongol Legacy of Persian *Farmāns*." Linda Komaroff (ed.), *Beyond the Legacy of Genghis Khan*. Leiden-Boston: Brill. pp.407-421.
- Staatliches Museum für Völkerkunde München 2005. *Dschingis Khan und seine Erben: Das Weltreich der Mongolen*. München: Kunst- und Ausstellungshalle der Bundesrepublik Deutschland, Hirmer Verlag GmbH.
- 杉山正明 1990 「草堂寺闊端太子令旨碑の訳註」『モンゴル帝国と大元ウルス』京都大学学術出版会, 2004. 425-456 頁 (初出: 『史窓』 47, 1990)
- 杉山正明 1991 「東西文献によるコデン王家の系譜」『モンゴル帝国と大元ウルス』京都大学学術出版会, 2004. 457-489 頁 (初出: 『史窓』 48, 1991)
- 杉山正明 2004. 『モンゴル帝国と大元ウルス』京都大学学術出版会.
- 高橋文治 1995. 「モンゴル時代全真教文書の研究 (一)」『追手門学院大学文学部紀要』 31. 168-150 頁.
- 高橋文治 1997. 「モンゴル時代全真教文書の研究 (三) —— 「大蒙古国累朝崇道恩命之碑」をめぐって」『追手門学院大学文学部紀要』 33. 19-41 頁.
- Tumurtogoo [ed.] 2006. *Mongolian Monuments in Uighur-Mongolian Script (XIII-XVI Centuries): Introduction, Transcription and Bibliography*. Taipei: Institute of Linguistics, Academia Sinica.
- 牛根靖裕 2008. 〈元代雲南王位の変遷と諸王の印制〉《立命館文学》608. 397-369 頁.
- 渡部良子 2002. 〈《書記典範》の成立背景——一四世紀におけるペルシア語インシャー手引書編纂とモンゴル文書行政〉《史学雑誌》111/7. 1-31 頁.
- 渡部良子 2003. 〈モンゴル時代におけるペルシア語インシャー術指南書〉《オリエント》46-2. 197-224 頁.
- 西藏自治区檔案館〔編〕 1995. 《西藏歴史檔案薈粹》北京: 文物出版社.
- Yokkichi Yasuhiro 2010. "Chinese seals in the Mongol official documents in Iran: Re-examination of the sphragistic system in the Il-khanid and Yuan Dynasties." 《吐魯番学研究: 第三屆吐魯番學暨歐亞游牧民族的起源与遷变國際學術研討會論文集》上海古籍出版. pp. 315-330.
- 余大均 1982. 〈蒙古朶儿边氏孛罗事迹辑〉《元史论丛》1. 179-196 頁.
- 照那斯图 1991. 《八思巴字和蒙古語文献 II 文献匯集》東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 照那斯图 1996. 〈八思巴字蒙古語龙年圣旨〉《民族语文》1996/4. 45-49 頁.
- 照那斯图 1997. 〈蒙元时期宮廷文書的印章文字〉《民族语文》1997/3. 43-50 頁.